

松嶋夜話 序

〔原文〕曩昔。余居燕山日。為問話者。眎許多閑套語。

〔訓読〕曩昔(むかし)、余燕山に居する日、問話の者の為に、許多(おお)くの閑套の語を眎め

〔原文〕而作燕南記譚六卷

〔訓読〕而も燕南記譚六卷を作る

〔原文〕流行已十有幾年

〔訓読〕流行已に十有幾年

〔原文〕年来又来松嶋而不歇

〔訓読〕年来又松嶋に來り歇まず

〔原文〕茲記先人教誡

〔訓読〕茲に先人の教誡を記し

〔原文〕或系平素自撰私記

〔訓読〕或いは平素の自撰の私記に系(つな)げ

〔原文〕又或閑人物氣質時尚習風

〔訓読〕又或いは人物の氣質、時尚の習風を閑す

〔原文〕不忍舍所其欲言

〔訓読〕其の言んと欲する所を舍(お)くに忍びず

〔原文〕漫為松島夜話

〔訓読〕漫に松島夜話を為す

〔原文〕空也何人

〔訓読〕空也、何人ぞ

※空也？

〔原文〕惟應合閉門塞兌以一默賽佛恩

〔訓読〕惟だまさに門を閉じて兌(くち)を塞(と)じて一默を以て佛恩を賽(む)くふべきに

※塞兌(そくたい) 穴をふさぐ。耳目の欲望をふさぎおさえる。『老子』五十六「塞其兌、閉其門」

〔原文〕却是設迂闊之辨論

〔訓読〕却つて是れ迂闊の辨論を設け

〔原文〕線索落艸之歎談

〔訓読〕落艸の歎談を線索し

〔原文〕而空蟬噪噪

〔訓読〕空蟬噪噪として

〔原文〕何逆于世、閑打閑哉

〔訓読〕何ぞ世に逆らひて、閑打閑(こう)なるかな

〔原文〕必是匪取晒於大方家賢明者耶

〔訓読〕必ず是れ晒(わら)ひを大方の家の賢明に取る者に匪(ず)や

〔原文〕是我宿習未央乎

〔訓読〕是れ我れ宿習未だ央(つき)ざるか

※宿習 佛語。前世からの習ひくせ。前世から薫習した煩惱

〔原文〕將亦有不得艾而為之乎

〔訓読〕將た亦た艾(やむ)ことを得ざることを有りて為るか

※「之」

〔原文〕吁苟知於我者、必坐於我也

〔訓読〕吁、苟(まこと)に我を知る者は、必ず我を坐(み)せんなり

〔原文〕為之序

〔訓読〕之が序を為くる

〔原文〕元文三年戊午申月令日。三住花園。現住松嶋瑞岩

〔原文〕七十空老天嶺書于所居蓮花軒中

